

武藏名所考

春

42903  
7



晃嶠陳人著

武藏名所考



江戸書林

千鍾房  
青藜閣

本州之勝區入於古歌  
詠者率皆遷移沿革  
多不猶昔霞関則侯郵  
駢比墨水則人煙蕃庶  
忍岡之蘼蕪芟為紺苑  
武野之曠漠犁為白田

固雖雍熙使然而汲古者惑焉况掘兼井之猶為棄井狹山池之竭矣自頻立野之駟玉里之布不詳其處如是之類皆不可不闡發也余嘗

蒐羅諸說編摩商榷附以臆斷釐為四卷名曰武藏名所考顧茲孱陋豈足眎人聊存思古之慨以颺文化日闢之美云

文化丁丑朽月晃崎陳

人編次



朱葦三亥書



武藏名所考凡例

一名所和歌を輯録せしむ僧宗願の勅撰名  
所和歌抄墨村昌琢の類字名所和歌集僧澄  
月歌枕名寄僧宗憲の松葉名所和歌集僧  
西順の歌林名所考ふところを其の魁とす  
今所のむらふべきは據まりされをけりぬ  
書を載ると載せざるを以て示し其乃  
おせざるもの宮崎山霞崎以知伊津の如き  
名文集に據りまは岩瀬渡のこま六先

此等或書りり武藏之といひて一に據るこれを証と  
一名西のはひてある延喜式和名抄の郡乃次第に據  
まり但葛飾郡ハむの〜下總よて今武蔵に属  
し〜これハ最後は裁へる事とてその地豊島に隣り  
きこれハいんちよ便よきんより〜これうべに法いてたり  
一和歌を載るものこれ五郡各多少なきにあり  
今これとて延喜式とて〜いんちのハ本集よ  
物き証出せるをありけり

一玉河玉河里狭山狭山池都筑郡都筑邑部

筑里とて然りまよ〜いんち〜今五郡と  
並〜ゆると然りその舊に法〜ゆるり能り但  
む〜の〜系立郡の系隅田河系れ〜いんちの〜  
あよ系あるん〜いんちこれを贅と  
一む〜の向園堀の井邑部の系あるとよめ  
るま〜あ〜いんちこれ各郡あるとよめありせり  
の〜いんち〜む〜の〜地証とせるま〜あ〜いんちとてその  
き〜いんち各々の下〜いんちと荒井園の崎の系ある  
の〜いんち〜いんち〜いんち〜

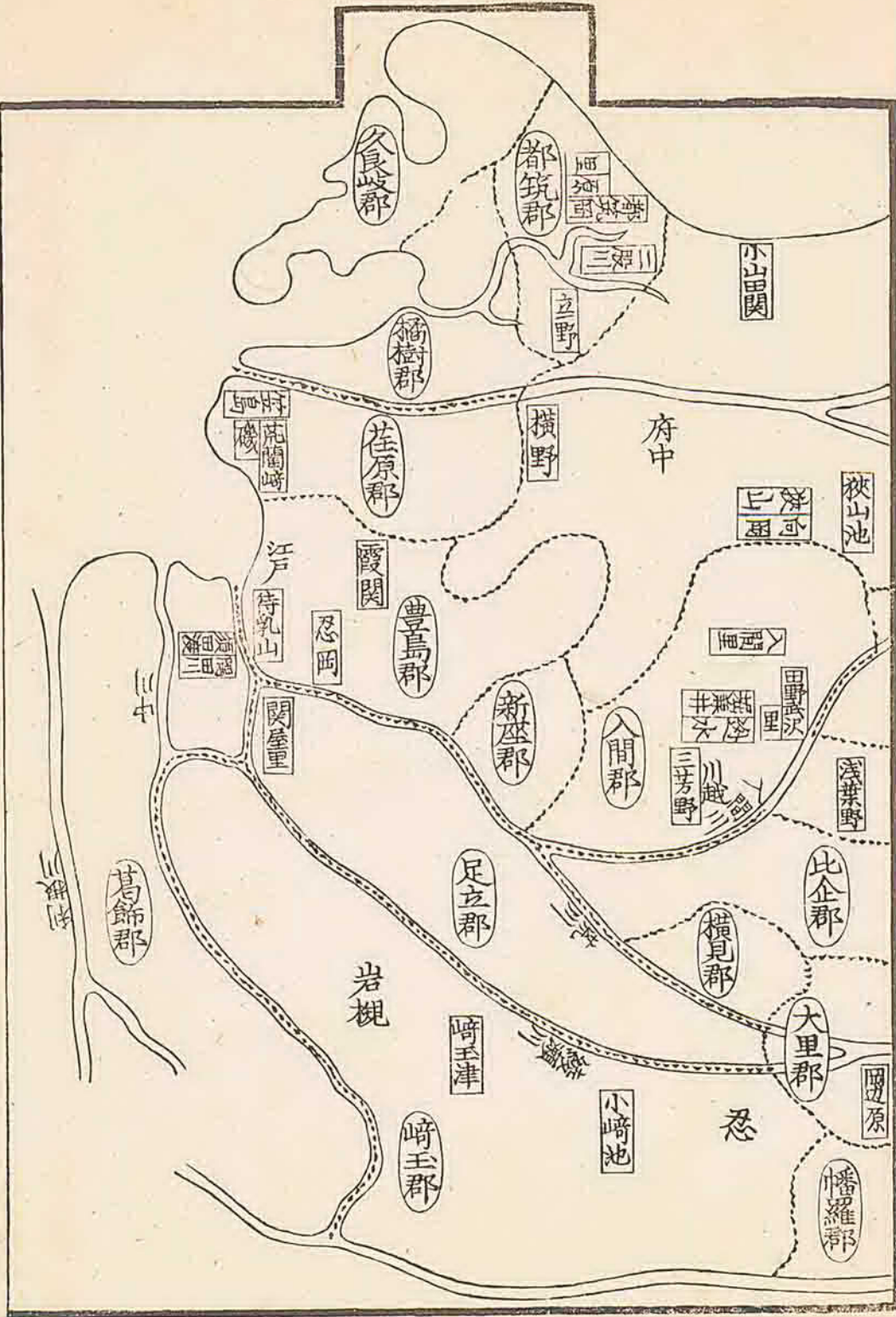
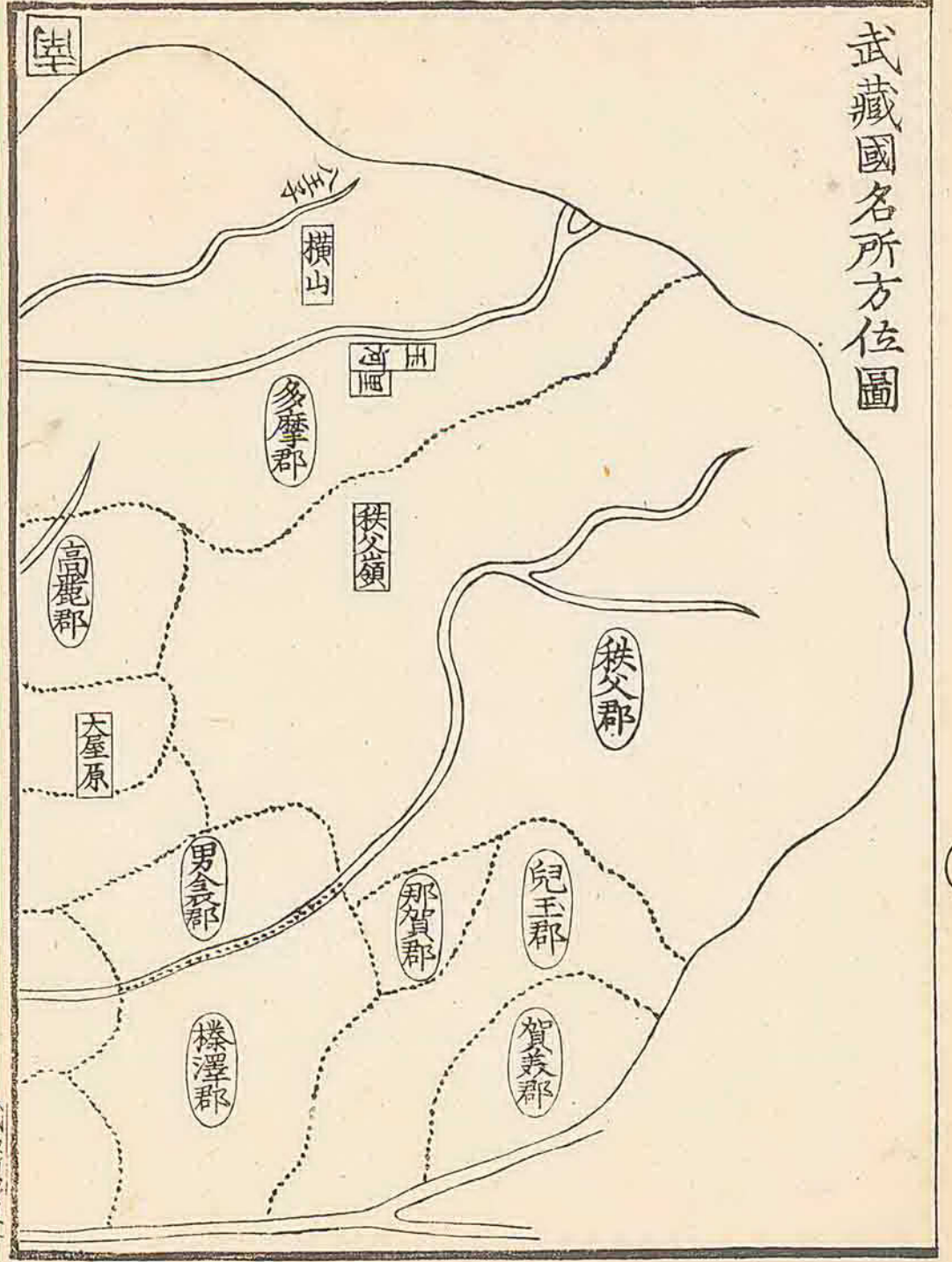
一 不詳の歌も同じく歌をいふ詩のむねに  
まじりたるものもなほ詩の歌に同じく  
歌をいふこととて強ふものやうに  
多例ありこれよみの歌を多くして  
のこらるる歌をよみゆきあり又まじりたる  
詩よみの詩をよみはけあるものも  
歌よみありたるゆゑなり

一 吾妻鏡に載たる横山氏都筑氏須田氏浅羽氏品部  
氏等の人名は録せし各處の下に出るる事法附

會とていふものと後の考よとていふものは異なる

一 和歌のほつて其作者の世次をのこす作者部類  
大系圖等にていふこととていふを集中の著る年號に  
接していふこととていふは別集のむねに  
これとて集に載るものもいふこととていふは  
一 名所の事実を載るもの近頃撰とていふ書に  
いふこととて和歌よみのつていふ慶長以後のもの  
いふこととて義ありとていふはた煩を省くもの

武藏國名所方位圖



武藏名所考引書目

日本書紀

續日本紀

延喜式

和名類聚抄

武藏風土記

常陸風土記

拾芥抄

吾妻鏡

神明鏡

源平盛衰記

義經記

北條九代記

太平記

關東治亂記



北條五代記

畠山系圖

武藏七黨系圖

小田原北條氏今限帳

萬葉集

仙覺萬葉集抄

萬葉集拾穗抄北村季吟

萬葉集代匠記僧契冲

古今和歌集

後撰和歌集

拾遺和歌集

後拾遺和歌集

金葉和歌集

詞華和歌集

千載和歌集

新古今和歌集

新勅撰和歌集

續後撰和歌集

續古今和歌集

續拾遺和歌集

新後撰和歌集

玉葉和歌集

續千載和歌集

續後拾遺和歌集

風雅和歌集

新千載和歌集

新拾遺和歌集

新後拾遺和歌集

新續古今和歌集

新葉和歌集

大伴家持卿集

伊勢家集

紀實之集

藤原兼輔卿集

藤原元真集

壬生忠見集

藤原長能集

大中臣能宣朝臣集

曾禰好忠集

藤原實方朝臣集

源俊賴朝臣集

山家集

月清集

俊惠法師集

拾玉集

藤原俊成卿集

鴨長明家集

長明百首

後鳥羽院御集

土御門院御集

式子內親王集

拾遺愚草

藤川百首

玉吟集

壬二集

藤原光經卿集

藤原為尹卿千首

草菴集

續草菴集

慕京集

古今和歌六帖

堀河百首

永久四年百首

六百番歌合

老若五十首

千五百番歌合

建仁五十首

正治二年百首

建保百首

建保名所百首

現存和歌六帖

雲葉和歌集

夫木和歌集

貞治五年關白家歌合

現葉和歌集

題林集

勅撰名所和歌集

類字名所和歌集

類字名所補翼抄僧契冲

歌枕名寄

松葉集

歌林名所考

伊勢物語

真名伊勢物語

勢語臆斷僧契冲

源氏物語

大和物語

枕草紙

八雲御抄

藻鹽草

更級日記

異本更級日記

撰集抄

都土產僧宗久

旅日記僧宗久

北國紀行僧堯惠

回國雜記道興准后

宗祇諸國物語

東路土産僧宗長

靜勝軒詩跋僧靈彦

惺窩文集藤原肅

羅山文集林忠

日本事蹟考林恕

竹齋物語藤齋德元

江戸童

國名風土記

續無名抄岡西惟中

木曾路記貝原篤信

江戸鹿子

江戸砂子菊岡房行

本朝俗諺誌菊岡房行

武藏野地名考田澤義章

名所方角抄僧宗祇

宗祇終焉記僧宗長

武藏野紀行平氏康

梅花無盡蔵僧萬里

舉白集豐臣勝俊

丙辰紀行林忠

日光紀行藤原光廣卿

紫一本

勝地吐懷編僧契冲

玉櫛笥

淺草寺緣起

江戸名所話

再訂江戸鹿子奥村氏

再按江戸砂子丹治庶智

諸國里人談菊岡房行

南向茶話酒井忠昌

求涼雜記酒井忠昌

江戸名勝志藤之

郡名考青木敦

江戸志近藤義博

武藏志料山岡明阿

駿河國志柳原長俊

駿州名勝志川合長行

武藏演路大橋方長

長祿年中江戸圖

江戸往古圖說大橋方長

武藏堀兼井事實僧亮盛

狹山觀音順禮記僧亮盛

武藏志稿

埼玉郡記

甲斐名勝志萩原元克

武江披沙大田單

三芳野名所舊跡記

四神地名錄古河辰

隅田川考中神守節

武野遊草石永貞

武藏國村附

武藏名所考目次

第一卷

武蔵野

右無郡可屬

都筑郡

都筑岡

二股川

右都筑郡

第二卷

都筑原

都筑里

立野

玉河

向岡

狹山池一名箱池

横山

右多磨郡

荒藺崎

笠島

右荏原郡

忍岡

玉河里

狹山

小山田關

横野

荒藺磯

霞關

右豊島郡

第三卷

葛飾

廬崎

右葛飾郡

關屋里

右足立郡

第四卷

待乳山

忍杜

角田河

須田渡

堀兼井

入間里 附入間河

遜水

田能武澤

田能武里

三芳野

淺葉野

大屋原

右入間郡

崎玉津

小崎池

右崎玉郡

岡部原

右榛澤郡

武蔵嶺

右秩父郡

氷川

蝦手山

海比

原田里

猪名河

大我井杜

阿賀須沼

古江浦

岩瀬渡

宮崎山

霞崎

以知伊津

曝井



右郡未勘

武藏名所考卷一



武藏野

昆嶠陳人編

勅撰名所和歌抄類字名所和歌集歌枕名寄松葉集  
歌林名和考並凡武藏野武藏と載之但名所抄八  
武藏野原代あけ武藏と注凡類字名之別亦武藏  
野原と河けり

萬葉集之云武藏野又牟射志野

八雲御抄之云武藏野武藏

建保三年内裡名所百首目錄之云武藏野武藏

藤原草子云むさう一燈又むさう一の原

伊勢物語云むさう一男有りあり人のむさうは汝と  
むさうむさう一燈又むさう一の原  
むさうむさう一燈又むさう一の原  
むさうむさう一燈又むさう一の原  
むさうむさう一燈又むさう一の原  
むさうむさう一燈又むさう一の原  
むさうむさう一燈又むさう一の原  
むさうむさう一燈又むさう一の原  
むさうむさう一燈又むさう一の原  
むさうむさう一燈又むさう一の原

吾妻鏡云建永二年丁卯三月武藏國荒野等可  
令開發之由可相觸地頭等之趣被仰武州廣元朝  
臣奉行之

又云仁治二年十月廿二日以武藏野可被闢水田之  
由議定訖就之可被懸上多磨河水之間可為犯土

之儀欵將又將軍家御沙汰欵可為私計欵賢慮猶  
難被一決仍今日前武州召陰陽師恭貞晴賢等朝  
臣被示合各一同申云堰溝耕作田畠事者雖不及  
土用方角沙汰於此事者已為始御沙汰欵可謂大  
犯土者欵雖非將軍家御沙汰私御方違可宜欵若  
可為國司沙汰乎云云前武州又被仰曰雖似沙汰  
耕作之後者為御所御計可賜人々然者可為御所  
御沙汰北方當時王相欵自明年又可為大將軍方  
可見定御方違御本所云云為武藤左衛門尉頼親  
奉行相具恭貞晴賢行向武藏國海月郡自彼所猶  
為北方云云即兩人歸參于前武州亭申此由以秋

田城介所領同國鶴見郷可為御本所之旨恭貞等  
令一同之間可有入御之由攝津前司師貞毛利藏  
人大夫入道西阿民部大夫入道行然佐渡前司基  
綱出羽前司行義秋田城介義景太宰少貳為祐加  
賀民部太夫康持等群議治定之後相副行義義景  
於恭貞晴賢被申御所召入御前被聞食其子細仰  
曰冬至以後鶴見相當良方可為王相方始御方違  
于塞方事者有其憚冬至以前先可有渡御可被用  
何日哉云云恭貞等申云來月四日可宜其後可有  
立春御方違也云云四日天晴今朝將軍家為武藏  
野開發御方違渡御千秋田城介義景武藏國鶴見

別庄

更級日記云云いふ事ありむさうの國とありぬことんとの  
しきふもいふは深きとあそむるくもなぐこひられ  
やうしきくむさうたおやとまきく野も何いふまのたう  
ねひく馬にのりく弓のしるすもいふまぬまきく多う  
おひしけりく中級もゆくに竹志を寺何り

撰集抄云云さき門ころ武藏野代さ侍りしに赤柳  
浦の草花を散りし人をもとまは草花いろく  
こされてさけくは綿をひらけこん知ら侍りく  
むさう那六地けとも秋のそそあはいつなる風の寒に  
吹くんとさうおひやりて侍りかこてやうくか入て

と侍たにををまねく家居なるあり

草菴集に云九月はさりの武彦時成る侍るとて武  
彦時六行り来れまなれハ云云

太平記に云石堂禪門今夜我等の勢成引合て國  
よりむさう野に向く新國の人と一にあり云云

又云新田武藏守武彦時の山を居るは打除給ふ  
郊の侍と云むさう野のともなき居りてはる

赤八道はまの侍とありさうりもみかかりを  
枕むすひくゆき侍りしむたは侍むしむ

人ありくこそくあやまるとも上りたるとき  
しつとさめてやまぬいしむのまぬまひまてり

白波のあうりくさきりにいと旅の床もそら  
うくこせ侍りし

静勝軒詩跋に云凡遊關左者必以見富士山過武  
藏野渡隅田川登筑波山則皆誇四方觀遊之羨也

山國紀行に云箕田といふ所ありく武彦時と分  
侍るふ侍後のむり名にせえく後山あり

梅とらに箕田は是と郡箕田村あるく侍る初  
めも箕田と云ふ所まこと上野國よりけり入り

しなれハそれまありく後山も多磨郡に在  
るくくまそのむたのせぬ

又云むさうの東のさうい忍園と優遊く侍る

社五條天神と申侍り云々かきくひ小湯高との小石有  
又云むさう一乃くうち申せといふわく平重俊といふ  
りよわしたよりて眺くふる朝霧をとりて入く膳をするふ  
何の事をもたはる湯も唯白雲のかきるとくたりと云ひて  
又申やうりの里へかたり侍り云々漸日きかくゆーの  
わりとよけれふる事れあはれ志のきくお祓あひさあひか  
とく侍り一に事れよたくと泡雲のきれるかとおほゆゆ  
御とゆ一れきうかひくと侍り

田國雜記云むさう一申さく月をあらえくと云ゆか  
時とよきとれて云々あの夜ハこの申さかり侍りて色れ  
事紀を枕かかきとすさう一ゆとらと事いふたれハ云  
武彦神と出く酒を飲て遊ひとあれたく一免て雲雀  
のあつあひみくと云々又むさう一乃く事れ陰さたといふ原  
里侍りかきあれたるかりとく

按するふ淡路ハ即新産郡淡路村あるべし

名所方角抄云鎌倉より奥州へくると先登り  
出ると武彦神の初るあちの浦とくより五宮なる一園  
おとあつと時あり鎌倉より水とあつるなり園中ハあ  
云々申あつてハ人家ありと云々一ハ只神なり

諸國物語云武彦野の事より出く草庭と申す  
き本陰もあはれ永き日かきとてかかると

東路の記云武彦國かひぬまといふ事と申すぬと云

因西之山寺あり其を武蔵野之杉本坊といふ武蔵野  
の景氣をうりて同十五日氏忠三田孫 おりて息政定  
これのれ物うらかていむさう一那の萩原の中流るるり  
うてさく長尾孫右衛門方の館をうらうていれたるぬま  
地形をまて須賀谷といふ所と小泉掃部助の宿を  
逗留しむさうの昔北中御あり

按さう勝沼といふ地名も多摩郡青梅村のまに  
在り地形城址も男倉郡白岩村と在須賀谷すれ  
はら比企郡の須賀谷村あり

宗祇終焉記云文龜とくめれ年六月のと急駿河  
國と一歩をこさめ云云後に八九年れこのかこ山内扇谷  
降楯の事ありまきりおまそ八ヶ國にてたれ道ゆ  
人をもたやとかくはとまきりさうさかたておれつとて  
武蔵野をまをさく上舟をへて九月一日の須賀谷後  
園府といふりぬ

武蔵野紀行云むさう一社をこりおくれたまことさくひとま  
さうのあつたさくたてまきりさくたのあつたやとて  
のこまきりおれをのりぬさうり那り

丙辰紀行云名にわ武蔵野八月廿八日まきりさく  
さうのあつたさくたてまきりさくたのあつたやとて  
武蔵野の肉とくはる

日本事跡考云武藏國平原廣野不見山千村万落  
雞犬相聞朝日夕日出沒草際

諸國里人談云嘗嘗一郡と云六中社の西代々平野  
野といふ事より府中の邊までの曠野あり

按さるるに代々ある中社の西あり以南ありを  
為郡と屬以平野野の地未考へと

武藏野地名考云古くも十郡と跨つてく福元秩父根  
東に海北に河越南に向の國郡筑う常に云々と云古  
文書ありと記す一と百とを云り以來民居村里と  
あるといへるもむづこれ秋の付の軍のころにて平原とて  
一たたくまゝとて郡とも秋のちくこの花をけり云々

武藏野と云はる一の多もよんてさあはれ此中かこに  
富士見塚といふあり云云又云りゆりゆり歩あり  
近路に府より府中北明神社地とありて七里中秋  
の頃府中の秋と宿りく二拾四五町少くゆれと云々  
月紙なる清原義経の影もあへぬ一の山福南の  
表りののを後波の山は東山の志と云かたりと云はれ  
福をありさるるこれと云ふ此中と云ふや

按さるるに十郡といふも多摩郡筑波樹木在原豊島  
新座入間高森比企秩父等とてもあつらん林羅  
山の院と云り越谷岩筑鴻巣忍ふとも皆武藏  
野の内と云れは比企秩父とのなき崎玉と云ふ加へ

十郡ありんか今考がし

又按ふる南へ向う國といふもの風土記の方位を合  
はせ既向是れちよありんか

米涼雜記云武藏州の中なるゆき中州といふ往古  
このむさし一郡も上野中州末州といふあり今上野  
末州を詳あしん

按ふるに古秋にむさし一野のほろの郡せさし一野の地  
兼の井むさし一野のさしなりあるとよさる類ありんか  
ひらく此國の原野はさし一多るもく其ふと定ふる也  
非るありし一吾妻後大平記等にむさし一野といふは  
又こより考ふるに多る郡より入間郡と連ふる地と

あはしく一國とかりんかいひふる事と入はえん水國紀  
行とむさし一野の東のさし一忍國とある一圓國雜記小  
をむさし一野のむさし野の原坂とある一なる小橋れハ  
鳴新産まきし一むさし一野の内と入はえん西原紀行  
地名考等れ説ハこれよりなる事と定めまこ今入  
間郡のうらし武蔵州郷と稱ふるもの上下赤坂上下松  
系大井藤窪飛窪竹間沢鶴ヶ園大塚岡新田序  
柳新田十二村あり又むさし一野十七ヶ新田といひんか久  
米新田安松新田正沢新田岩園新田下田新田堀金  
新田中新田堀の内新田加佐志新田三ヶ島新田諸園  
新田猿新田長窪新田等れ村といひんか  
四村の名いきて  
詳あしん



も下田村のりりらに榊林大村系をとりて武蔵野  
の儘と存せりるに三里ふあまるとのひ又今も多摩  
郡と野方所あり又中野といふ村二所中野といふ村二所を解  
日野系野入野中津野上野系野入の村名あるとされ  
むら八多摩入岡の二郡こゝに多くを野ありといふ  
たり續古今集下野の歌ふまゝ人々といふことありぬかれ  
一名のゆゑにゆりぬむらゝの系又新後拾遺集  
源頼房の歌をよみ統河中へは藤原氏かそてをまゝ  
むらゝにゆきまほむとをまゝといふことあり其地とい  
らぬ人の遠想一くよめぬとせよそのことありぬ  
おのつらおのつらといふ今も土人むらゝに八百里と

ゆりらといふ傳ふる外との説は傳り説を抄の  
廣きゆららといふことありてむらゝに十郡と  
跨るともいふる事あり

又按するに武蔵野の系と此系とを合せしる事ハ延喜  
式と交易雜物武蔵國紫草三千三百斤とあれいぬ  
へき武蔵野より糴生乃紫草多く産せしる事知  
る

漢人志 萬葉集

武蔵野の系といふことあり

同

むらゝにゆきまほむとをまゝといふことあり

同

あはれ神のちかきつをたてし神のちかきつをたてし

同

あはれ神のちかきつをたてし神のちかきつをたてし

同

あはれ神のちかきつをたてし神のちかきつをたてし

同

あはれ神のちかきつをたてし神のちかきつをたてし

小野小町 續古今集

あはれ神のちかきつをたてし神のちかきつをたてし

在原業平朝臣 家集

あはれ神のちかきつをたてし神のちかきつをたてし

後人志 伊勢物語

あはれ神のちかきつをたてし神のちかきつをたてし

源宗于朝臣 大和物語

あはれ神のちかきつをたてし神のちかきつをたてし

伊勢大輔 家集

あはれ神のちかきつをたてし神のちかきつをたてし

後人志 古今集

あはれ神のちかきつをたてし神のちかきつをたてし

同

あはれ神のちかきつをたてし神のちかきつをたてし

紀貫之 後撰集

よき人〜世に秋のさか〜世に秋のさか〜世に秋のさか

武彦共神のい〜り命〜と若む〜と若む〜と若む

武彦共神のい〜り命〜と若む〜と若む〜と若む

武彦共神のい〜り命〜と若む〜と若む〜と若む

武彦共神のい〜り命〜と若む〜と若む〜と若む

武彦共神のい〜り命〜と若む〜と若む〜と若む

武彦共神のい〜り命〜と若む〜と若む〜と若む

武彦共神のい〜り命〜と若む〜と若む〜と若む

武彦共神のい〜り命〜と若む〜と若む〜と若む

武彦共神のい〜り命〜と若む〜と若む〜と若む

武彦共神のい〜り命〜と若む〜と若む〜と若む

淡人志

淡人志

かの女郎

藤原兼輔卿

九條右大臣藤原師輔

藤原元真 家集

壬生忠見 家集

藤原長能 家集

同

平兼盛 家集

平兼盛

源順 家集

しるし野の駒津よも園山よりひうらこえて今新出づらん  
大仲臣能宣朝臣文集

しるし野の昔れ秋さうつし極く若うさあとき世秋さうつ  
如實法師 拾遺集

しるし野のまゝいんれしうつしあゆみのゆりとり人もこそ  
主殿 藤原實方朝臣集

あつひ美人もる世と武藏野のあゆみ何よりせしき  
讀人志ら 源氏物語

因

武藏野のあゆれしうつしあゆみのゆりとり人もこそ

源師信朝臣 新後撰集

あつひ行く行末さうつしあゆみのゆりとり人もこそ

源定信

武藏野のあゆれしうつしあゆみのゆりとり人もこそ

源師頼朝 堀川百首

あつひ野のあゆれしうつしあゆみのゆりとり人もこそ

藤原顯季卿 家集

あつひ野のあゆれしうつしあゆみのゆりとり人もこそ

藤原仲實朝臣 堀川百首

武藏野のあゆれしうつしあゆみのゆりとり人もこそ

藤原顯仲朝臣

藤原のゆかりのききしむる朝の事いふくありしころ

俊子内親王女房河内

むかしはいかにかたむねはしむる事ありゆりたむゆ

藤原親隆卿 夫本集

武藏野の葛はもよおのきいれくうはゆりての月をそと

源俊頼朝臣

むかしはのめは秋とていけゆきふすきとよりこそあはるる候

同 散本集

武藏野のまけふる藤原のむねはくともゆりてゆりてゆりて

西行法師 新勅撰集

むかしはあはれいかにむねはむかしはあはれいかにむねは

徳人志

あまのうらなはきくむかしはくともゆりてゆりてゆりて

藤原顯隆卿 六百番歌合

むかしは野の雉もあはれいかにむねはむかしはあはれいかに

源頼政卿

霞をや煙とていかに武藏野の事もいかにむねはむかしは

藤原範兼卿 建保名所百首

武藏野の月影あはれいかに尾上りうらなはこれゆりて

藤原遠明 夫本集

むかしはあはれいかにむねはむかしはあはれいかにむねは

藤原清輔朝臣

むすむのうきくたのたのひくくむくくの時もあふゆの形

藤原隆季卿

むすむと秋もあふたむくくは清芽抄かきかぬる形は

後京極攝政 藤原良経公  
新古今集

むすむちやまむすむのむくくはくまのけりよりいつる月ひ

同 御集

むすむのむくくはくまむすむかむすむのむくくはくまのむくくはくまのむくくは

藤原俊成卿 夫木集

藤原俊成卿の時もあふむくくはくまのむくくはくまのむくくはくまのむくくは

慈鎮和尚 拾玉集

むすむの時もあふむくくはくまのむくくはくまのむくくはくまのむくくは

同

むすむ野子まのくまのむくくはくまのむくくはくまのむくくは

同

武蔵郡のむすむはくまのむくくはくまのむくくはくまのむくくは

同

むすむのむくくはくまのむくくはくまのむくくはくまのむくくは

藤原重家卿 新拾遺集

むすむのむくくはくまのむくくはくまのむくくはくまのむくくは

藤原長方卿 家集

むすむのむくくはくまのむくくはくまのむくくはくまのむくくは

後鳥羽院御製 老若平首秋令

此の時の旅のやぶのよきと思ふよりけりなれり

同 正治二年百首

結の雲の雪の庭を冬枯くあゝこれ海をむさうけ

如願法師 夫木集

此の時のやぶの雪かたむけのよきと思ふよりけり

土御門院御製 後古今集

此の時のやぶの雪かたむけのよきと思ふよりけり

同 御集

春の時のやぶの雪かたむけのよきと思ふよりけり

鴨長明 百首

此の時のやぶの雪かたむけのよきと思ふよりけり

藤原有家郷 夫木集

此の時のやぶの雪かたむけのよきと思ふよりけり

藤原定家郷 建仁五十首

此の時のやぶの雪かたむけのよきと思ふよりけり

同 新後拾遺集

此の時のやぶの雪かたむけのよきと思ふよりけり

同 愚草

此の時のやぶの雪かたむけのよきと思ふよりけり

同

此の時のやぶの雪かたむけのよきと思ふよりけり

同

武彦時之弟兼光のあはれなきとあはるる月日とあはるる

同 藤川百首

此のころのあはれなきとあはるる月日とあはるる

同 丈夫集

此のころのあはれなきとあはるる月日とあはるる

藤原家隆卿 建保名所百首

此のころのあはれなきとあはるる月日とあはるる

同 續後拾遺集

此のころのあはれなきとあはるる月日とあはるる

同 新拾遺集

此のころのあはれなきとあはるる月日とあはるる

同 玉吟集

武彦時之弟兼光のあはれなきとあはるる月日とあはるる

同 丈夫集

此のころのあはれなきとあはるる月日とあはるる

同

此のころのあはれなきとあはるる月日とあはるる

同

此のころのあはれなきとあはるる月日とあはるる

藤原雅経卿 千五百番歌合

此のころのあはれなきとあはるる月日とあはるる



同 家集

くも又秋のうらををたんとくあふりくはむさくはら

藤原経家卿 正治二年百首

此れゆりやんをて武彦野の葦を色くあつたれより

禪性法師 夫本集

その多ににらぬ草をむすしにむししに咲つる葦くは

寂蓮法師 家集

しう一穂のまを六神の分位ぬまれまけまき秋をまふ

同 夫本集

まぬくすくすのぬ武彦野の神をくまきよまのまを

順徳院御製 夫本集

しう一穂をむらうはらむと秋のあつたまを山雲の樹を

同

まう一野れ秋のうらと秋風をまきまのまをむらう

同

まのむらうむらうむらうむらうむらうむらうむらう

同

まう一穂をむらうむらうむらうむらうむらうむらう

同 建保名所百首

みらうむらうむらうむらうむらうむらうむらうむらう

行意僧正 建保名所百首

武彦野の草をみらうむらうむらうむらうむらうむらう

藤原家衛卿

何事もぬきて神と移りきりゆりのあはれむさう一神の家

藤原俊成卿女

海よりおれそり神と出れ音をもみくなくさきむさう一神の家

同 家集

むさう神の家れゆりに写羅子春をむさう一のいふむさう

同

むさう神の家れゆりに秋風の雲よあらるり来りて

順徳院女房建保名所百首

縁よりよきさきむさう一のあきも好ゆりつらむさう神の家

兵衛内侍

思ひやるむさう神の家れむさう一れもあつらひせんむさう神の家

藤原忠定朝臣

月とあつらむむさう神の家れむさう一れもあつらひせんむさう神の家

藤原知家卿

むさう神の家れむさう神の家れむさう一れもあつらひせんむさう神の家

同 續古今集

武藏野入り来迎くまのけきりてむさう神の家れむさう一神の家

同 續拾遺集

冬の日れゆりむさう神の家れむさう一れもあつらひせんむさう神の家

藤原範宗卿 建保名所百首

むさう神の家れむさう神の家れむさう一れもあつらひせんむさう神の家

藤原行能卿

此は月ひかりの尾を上げ去る乃道

藤原康光

此は月ひかりの尾を上げて昨日の夕暮の影を

藤原光經卿 家集

此は月ひかりの影を上げて月影の影乃白雲

前園白 藤原道長公 新初撰集

此は月ひかりの影を上げて月影の影乃白雲

鷹司院 長子 新千載集

此は月ひかりの影を上げて月影の影乃白雲

洞院權政 藤原教實公 家集

此は月ひかりの影を上げて月影の影乃白雲

源通光公 源通光公 新古今集

此は月ひかりの影を上げて月影の影乃白雲

源通方卿 續古今集

此は月ひかりの影を上げて月影の影乃白雲

藤原為家卿 千首

此は月ひかりの影を上げて月影の影乃白雲

同

此は月ひかりの影を上げて月影の影乃白雲

同 夫木集

此は月ひかりの影を上げて月影の影乃白雲

同

武蔵野をよむ心羊の葉事より藤の縁通く出る月教

同

武蔵野をよむ心羊の葉事より藤の縁通く出る月教

後嵯峨院御製 新拾遺集

心羊の葉事より藤の縁通く出る月教

監命婦 續後撰集

心羊の葉事より藤の縁通く出る月教

藤原頼氏卿

心羊の葉事より藤の縁通く出る月教

後鳥羽院下野 續古今集

心羊の葉事より藤の縁通く出る月教

後九條内大臣 藤原基家公  
丈夫集

心羊の葉事より藤の縁通く出る月教

藤原時朝

心羊の葉事より藤の縁通く出る月教

藤原為定卿 新撰古今集

心羊の葉事より藤の縁通く出る月教

土御門院小宰相 丈夫集

心羊の葉事より藤の縁通く出る月教

最信法印

心羊の葉事より藤の縁通く出る月教

山階入道左大臣 藤原實雄公  
秋枕名寄

郭公の交ゆふの野の秋波がゆきと止れぬとやれり

藤原經朝卿 新後拾遺集

夕煙とよき里のまてりまてりまてりまてりまてり

安嘉門院四條 風雅集

むさしむさしむさしむさしむさしむさしむさしむさし

藤原為理卿 新後拾遺集

草枕おのり松林のつらぬき日数わたりて武蔵のつら

能海法師 玉葉集

此秋もいふもなる武蔵のつらぬき日数わたりて武蔵のつら

藤原為實卿 文庫集

武蔵のつらぬき日数わたりて武蔵のつらぬき日数わたりて

同

花のまをこりし妻やこれならん下と菊はむさしむさし

藤原長秀 新後拾遺集

婦のまをこりし妻やこれならん下と菊はむさしむさし

久明親王 續千載集

むさしむさしむさしむさしむさしむさしむさしむさし

讀人志くは

むさしむさしむさしむさしむさしむさしむさしむさし

源頼康 新後拾遺集

草枕のまをこりし妻やこれならん下と菊はむさしむさし

藤原定資卿 新千載集

ゆきく千かきつそ初ぬしうゆわぬり事も袖乃ゆいふ

等持院贈左大臣 源尊氏公  
新後拾遺集

東海いよふあう武花野れとあきよ宗成行やまきふん

源知行 新千載集

ゆきゆの千あふ遠く山の端いゆそま見えぬしうゆ系

藤原雅家

果知ぬ身のあふひとむさのを分迷やまぬる袖乃

頼阿法師 尊唐集

ゆきゆ月を照つよあけひひの雪や草花枕むしとん

同

ゆきゆ師をたのまれとあふれ秋いふことあまのりたりきれ

同 續尊唐集

ゆきゆ花をまの枯ゆい雲のきいさる草花ゆりり成らん

同 貞治五年園田家秋合

ゆきゆ世をくさく弱のいゆりふ紫乃意よあうそね

宗久法師 新後拾遺集

ゆきゆ世をくさくさくある日教よふふ二の福さぬゆゆゆ

同 都の侍宅

ゆきゆゆいゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

藤原行春 新拾遺集

ゆきゆと花のふ種ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

讀人志々次新後拾遺集

ひまの露をたゆ〜夕立乃雲よ阿まねるはさ〜乃く京

同 文本集

武蔵野のさ〜はそりる雲此塵乃ゆらと〜いひあ〜ひ

右大臣 藤原通平公 玉多集

旅人の行くつ〜よぬきゆく乃あま〜ゆるむさ〜時の家

菅原長綱卿 新後拾遺集

月うけも露のな〜りや露〜ん草た〜てけき武蔵の〜京

讀人志々次 風雅集

秋風の吹とぬきぬるむ〜野る〜て草葉の夕か〜りなり

源頼豊 新後古今集

きよなるさ〜くけはな〜りよ〜くま〜りゆとぬるむ〜は京

讀人志々次

むさ〜はらきよの果あ〜りゆとぬるむ〜は京

源持資 慕京集

武蔵野のさ〜はそりる雲此塵乃ゆらと〜いひあ〜ひ

同

ゆら〜はらきよの果あ〜りゆとぬるむ〜は京

竟惠法師 北國紀り

望〜はら何の果あ〜りゆとぬるむ〜は京

同

朝月の子〜はらきよの果あ〜りゆとぬるむ〜は京

同  
あるは船道六神よりしんきんを草むすのふりての系

同  
あるは船道六神よりしんきんを草むすのふりての系

道興准后 回國雜記

同  
あるは船道六神よりしんきんを草むすのふりての系

同

同  
あるは船道六神よりしんきんを草むすのふりての系

同

同  
あるは船道六神よりしんきんを草むすのふりての系

同

同  
あるは船道六神よりしんきんを草むすのふりての系

同

同  
あるは船道六神よりしんきんを草むすのふりての系

同

同  
あるは船道六神よりしんきんを草むすのふりての系

同

同  
あるは船道六神よりしんきんを草むすのふりての系

平氏康 氏康行

同  
あるは船道六神よりしんきんを草むすのふりての系

右無郡可屬



都筑郡

名寄松葉ノ裁ト歌林ノ山城經莊郡武都ト同名あり  
ト又松葉ノ經莊山城名所抄類字ノ六載セシト

延喜式ノ武藏國都筑

和名抄ノ武藏國都筑岨々

又云都筑郡餘戶店屋驛家立野乃多知針坂罰佐高

幡波多加 波多乃也

吾妻鏡ノ都筑平太文治元年

又云都筑右衛門尉同左近將監嘉禎四年

又云都筑右衛門建長二年

又云都筑九郎建長四年

江戸砂子ノ經莊郡櫛樹ノ並都也ハ非ナリ

郡名考ノ云正徳二年官よりきりしり於筑ノ用ナリ

武藏志料ノ經莊經莊ノ書リ

按とらん郡北筑郡東北ハ櫛樹郡ニ接シ西ハ多摩

郡ニ接シ東南ハ良波郡ニ接シ南ハ相模國高

座郡ニ接シ事ノ内ノ小敷町ヲ以テ今存スル郷

名ハ百八榎下麻生ニ不存スル所園小机根古倉ニ宗

願名ハ神奈川一所ノ七十七村ト云

大中臣能宣朝臣夫木集

此ノ地ハ筑ノ郡ニ接スル所ノ一也

都筑原

名寄松葉に載と名寄之管本系又継系又經喜系山  
城名所抄類字に經喜系山城經喜郡新林系經喜山  
山城武藏之同名あり原

夫本集之云はきの系相後又山城

藤原系よ云はきの系あり

名下方角抄よ云継系の國

武藏地名考よ云新筑系經我共書り或ハ經喜郡  
筑郡の内よて今ハ河井庄在り東海道程ヶ谷乃  
驛より二二里あり西之南なる子の西に二股川よ云  
里あり畠山重忠之後の墓あり古ハ澤倉よりみ

らのく此驛路也

武藏志料よ云或書よ筒城系つきの宮ハ山城國あり  
按とよま都筑郡二俣川村新田の内ハ山名本宿といふ  
所の山上に今新驛あり呼よ其地代む一都筑  
系といひ一所のよ一傳よハ畠山重忠合戦せ一あり  
本宿の農民七名あり先祖は系代新之壘開せ一時  
土中より古き鎧を掘いせ一ありけり地形高  
平あり水利よかされハ山ハ畠山を好くあり  
あり一あり一近き相模國言在郡鶴岡系  
系と七里あり一ありと云と云と云今此系  
跡系と稱する所地僅ハ東海ハ河南山四町

るまゝの西戎さしてむく此都筑の系とするはいつか  
らんじり六本都の内組掣の入るる西六とて都  
筑系ありて一教く一西と記するは非く

藤原行家 續古今集

長月乃都筑の系此秋葉の系とするはあはり抑るる系あり

顯昭法橋 新千載集

せうしゆは葉のゆりまゝの系は雪の系に

藤原家隆卿 支本集

たう里に流きの系はたうまゝの系ありまゝの系あり

都筑圖

名寄松葉と載と秋林と綴る里山城武系と同名  
あり園名不抄類字と六載せと

按とるは都筑系とよまひる原の流の如くは  
さしきまはりまゝの系とて本都八山勢低して  
悉くまゝの系とてあるまゝ也

藤原光俊 類后 支本集

以上せん流きの園の系とて此根てのらまゝの系と

都筑里

名寄松葉に載と類字と綴る里山城綴る都秋林  
と綴る里山城武系と同名あり名寄抄とて載せと

按るに和名抄都筑郡のりし餘戸唐屋敷並立飛  
針<sup>サシ</sup>坂<sup>サカ</sup>字幡橋屋の地名ありと筑<sup>ツク</sup>とひくなく山  
城<sup>シロ</sup>四<sup>ヨ</sup>盤<sup>バン</sup>在<sup>シ</sup>於<sup>リ</sup>のりし六<sup>ム</sup>盤<sup>バン</sup>在<sup>シ</sup>の地名ありと古歌に  
きの里とよみあり山城のくみなるべきをこれと徳書の  
記しありしをくくくく載或人の記しありのりし  
しるあり國開墾せぬ所を東村ありありしるあり里  
といふありんとこれをいふあり

藤原為世卿 新後拾遺集

原そ又信きの里にむきくなくきくもるぬ文立此

二股川

名寄松葉山載と名寄抄類字類林並に載せし

藤原為世卿 二俣川武州

吾妻鏡よ云元久二年乙丑三月廿二日畠山次郎重忠  
叅上之由風聞之間於路次可誅之由有其沙汰相州  
已下被進發軍兵悉從之云云前後軍兵如雲霞兮列  
山滿野午剋著於武藏國二俣川相逢于重忠

北條九代記よ云重忠ハ別心なきよし申すかんとて  
豫念よ来ると聞えしハ相模守義時次大将とて  
教方騎を率して武州二俣川より向ふるを不後よ  
畠山次郎重忠二股川よりせり來よ此由を以て鶴  
峯の林爲し陣とり云云

山田系北條の段帳に云廿一貫九百八十文小机二股川  
岩本石負

武藏地名考に云都筑系云云此亦二股川と云里河り  
那波の系  
の下の解

武藏國村付に云都筑郡神奈川領二俣川村京二又川村  
按に云二俣川今八村名とありて村より川は名づける  
やうに少ゆれとさすをいへて村に二川相合する所を  
ま六川の名より村は負うせざるなり一裁後よみ集村  
といふありそのありの山中より小流を助とせりて  
此村内より吾系の川を流ま合する村の名はあはせ  
よ一云傳ふと田口親輔といへり二股川の一流八村中

小名膳部村といふ所の山中より發しその一流八流を本郡  
川井村より發しとりに流を又とせりて八向根村より  
出る一流も合し橘樹郡保生谷驛のりより古橋といふ所に  
流まて海よりの北條九代記に相接ち義時教万騎を率て  
二股川よ出向ふと都筑系に下りて万騎原の地をん  
き息勢の寄りの村に降るとは今二股川の東よ  
り鶴ヶ峯村をかりけりて島山氏主後の墓とて  
六堆あり土人古の塚といふ又二股川村のうらよ澤の  
淵原風の淵半の淵持を淵とといふ各ゆゑある事  
と土民ハといふと名所よありてこれかへてく同く

藤原信實朝臣 現存六帖

志のりくわにやうくもあはれはむいりなやまのりくわにやうくわに

立野

名不抄類字名寄松葉並に載と名不抄小右和乎群  
那同名ありと類縁もる載せと

後撰集よ云兼頼朝居左近少将の侍りける時武彦  
乃如馬むくよ中より立目よとるうにさるるり有りて  
よとるに同はるれ少将よとむくよまうりくお飯より  
海身とくくくいひ知りとるりたる

倭名類聚抄よ云都筑郡立野多知

拾芥抄よ云立野姓尸録脚朝臣之下

又云石川由比立野小野秩父已上武蔵名牧

又云八月廿日牽武蔵小野御馬廿五日牽武蔵立野馬

武蔵野地名考よ云立野秩父郡の内池又都筑郡よも  
うとらひきよあまの國疑のそ

武蔵志料よ云今奥ふく立野のまきく都筑郡在郷名  
之和名抄の郷名ふも都筑郡と立野は都て多知乃と

訓是くりまに拾芥抄ゆも馬牧武蔵國に五戸有て石川  
由井立野小野秩父も有紙にれは是のまきく都筑郡

ゆと秩父郡の牧ハ別よあつを思ふ

武蔵源路よ云立野多磨郡立国原

武野遊草よ云北野村入同いよ云武野のうらに立



同

とての三神の神をひく物とてやまのまゝにわたりておのり

曾祢好忠 家集

みららば雲田の山は秋きうれ三神の神をひく物とて

藤原忠房朝臣 後撰集

秋の多ら神の神をひく物とてやまのまゝにわたりて

藤原俊成卿 文永集

夕暮れ三神の神をひく物とてやまのまゝにわたりて

冷泉太政大臣藤原公相公

旅人の三神の神をひく物とてやまのまゝにわたりて

野宮左大臣 源公継公

きりかたの三神の神をひく物とてやまのまゝにわたりて

正三位李経卿

なるとして三神の神をひく物とてやまのまゝにわたりて

藤原家隆卿 玉吟集

ゆくはの三神の神をひく物とてやまのまゝにわたりて

如覺法師 文永集

小ねの三神の神をひく物とてやまのまゝにわたりて

藤原信實朝臣 新勅撰集

目次へては秋風とてやまのまゝにわたりて

源通平卿 歌枕名寄

暮るる三神の神をひく物とてやまのまゝにわたりて



公朝僧正 夫本集

小男藤井三郎のふれり〜紅葉をうらぐまで出陣のふ  
花園院所製 後後拾遺集

今も身の上よふ極る秋落れらの弱はたふりらん

入道前太政大臣 藤原公實公  
後千載集

花とて此方のうたは秋きりれらるるあまの男藤井かく之

頼阿法師 草庵集

今も秋を〜花の面影よ〜門社のふれあふり下草

源有重 文本集

はき〜われきらあせれき葛のたうらひやとてあはれ  
うららる

右都筑郡

